

チェンライ（タイ王国）でのスポーツ交流

山田幸雄

私たちは、筑波大学国際テニストーナメント（ITF 公認）を開催している。株式会社筑波都市整備の協力のもと、様々なイベントを開催している。特殊体育研究室の協力を得て、洞峰公園においてブラインドテニスの普及のための集まりを行った。本大会の前の予選において、プレーヤーだけでなく地域の人々に、イモ煮鍋を作って振る舞ったりもしている。要望を受けて、近隣の高校や病院などへの出前テニス講習会を行っている。このように、国際テニストーナメントと関連づけてテニスを通じた様々な活動を行っている。

筑波大学は、国際化を目指して様々な活動を行っている。とくに、東南アジア諸国との交流を活発化することを期待されている。私の研究室にタイからの留学生がいる。彼の出身は、タイ北部のチェンライという町である。ミャンマーとの国境近くにある町である。そこに、チェンライラチャパット大学がある。ラチャパットとは教育という意味である。日本でいえば教育大学である。歴代のタイの王様が教育の重要性を認識し、教師の育成を行わなければならないということで作られた大学である。しかし、現在では総合大学になっており学生も2万人ほどいるということであった。日本語学科もあり、日本に留学したことのある学生も数名在籍していた。

まだ、スポーツが盛んと言える地域ではないが、これから発展していく可能性を秘めたチェンライで、スポーツ（ラグビーとテニス）の指導を行ってきた。ラグビーは中川昭先生と大学院生の吉田君、テニスはわたしとタイからの留学生で大学院生であるムウワン君であった。ラ

グビーの指導は、大学から少し離れたグラウンドで行われた。グラウンドの状態はあまり良くなかったが、参加者は熱心にプレーしたようである。女性も参加し、どちらかといえば女性の方が元気がよかったようである。テニスは、大学のコートで行った。ハードコートであったが、コート表面の傷みが激しかった。イレギュラーが多い中、熱心に耳を傾けてくれた。最後



写真1 私たち一行を歓迎する看板



写真2 チェンライラチャパット大学との交流の様子
中央は中川先生とチェンライラチャパット大学の副学長

に、こちらから持参したテニスラケットとラグビーボールを寄贈してきた。将来、タイの教育界を担っていく学生たちに、スポーツの楽しさを伝えられたことは本当に良かったのではないかと思う。これからも東南アジアの地にスポーツの楽しさを伝えていけたらなあと思いながら、チェンライを後にした。

今後も、スポーツを通じた国際交流を継続していきたいと考えている。



写真3 テニス指導の様子